

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第80号

8年目の活動が始動 2026年度の活動テーマは 「身近な地域課題を探りながら、ご近所福祉を語る」

2019年度本会結成以来、年度ごとに【活動テーマ】を決めて、人脈、活動の拠点を維持し、活動財源の開拓にも努め、尊い「焼津市赤い羽根共同募金 地域福祉促進助成事業」、「静岡県コミュニティづくり推進協議会 コミュニティ活動集団助成事業」、「公益財団法人さわやか福祉財団 地域助け合い基金助成事業」等により、地域の課題把握検証を中心に活動を展開し、各年度の検証結果を地域に情報発信してきた。

- 1年目(2019年度)【港地域の“ご近所”を切り拓く集まる居場所で地域ぐるみのささえあいを検証する】
- 2年目(2020年度)【港地域のご近所を切り拓くパート2ー協働による地域課題解決を探る】
- 3年目(2021年度)【港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る】
- 4年目(2022年度)【わかる・見える実践活動で“福祉文化としてのご近所福祉”を探る】
- 5年目(2023年度)【港地域のニーズ把握から“福祉文化としての港地域のご近所を描く”】
- 6年目(2024年度)【活動5年間の調査研究事業実績から、“ご近所福祉”を検証する】
- 7年目(2025年度)【地域活動実践事例から、これからの“ご近所福祉”のあり方を探る】

【焼津福祉文化共創研究会の3つの活動基調】

- (1) さまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図る。
- (2) 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざす。
- (3) 既存のコミュニティ・福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切に、つねに市民生活に密着した活動をめざす。

1. 2026年度活動の着眼項目

- (1) 焼津市V連加盟団体・グループや地域活動に関心のある地域住民とともに「語れる環境」、「地域総合型学習」の醸成に努める。
- (2) 「協働」による地域づくり、特に「地縁組織と志縁組織」の関係性を問い質す。
- (3) 市民参加による福祉文化の創造を語り合う。
- (4) 地域活動の実践を現場で学ぶ機会をつくる。
- (5) 困りごとを解決する支援及び地域資源を議論し合い「ご近所福祉の地域課題」を整理し、これからの地域づくりについて議論を深める。
- (6) 「若者発 ご近所福祉かるた」を地域福祉教育教材として、ご近所福祉の推進に、更なる活用方法の開拓に努める。

2. 具体的な活動内容

- (1) 定例研究会の開催
 - (a) 原則、毎月第2土曜日、18:30~21:00を定例開催日とする。
 - (b) 各種活動の状況に応じて、臨時研究会をもって、円滑な運営に努める。
- (2) 調査研究事業
 - ① 「ご近所福祉」を検証する
「1年目活動：地域ぐるみの居場所検証」「2年目活動：ご近所福祉 その意識と実態調査検証」「3年目活動：児童の福祉意識検証」「4年目活動：高齢者福祉意識検証」「5年目活動：中学生ご近所意識検証」の5年間のあらゆる角度の取り組みから「ご近所福祉」を検証した。今年度も、困りごとを解決する支援方法や地域資源を継続的に研究協議する。
 - ② 「若者発 ご近所福祉かるた」の更なる活用事例を収集する。
協働団体：静岡福祉文化を考える会が、企画制作した「若者発 ご近所福祉かるた」をこれまで10年間提供した県内の福祉施設・グループ・団体、地域実践者に「活用状況」を問い

合わせした結果をもとに、各領域における活用状況をまとめた「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を更に、多くの活用事例に発展できるように、活用事例を収集する。

(3) 研修事業

- ① 県内外の各地区の地域実践活動事例をもとに、“ご近所福祉”を検証し、身近な地域のあり方を議論する。
- ② 若者発 ご近所福祉かるた」の活用方法を考える。
平成27年度、令和3年度及び令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が企画・制作（合計300セット）した「若者発 ご近所福祉かるた」の活用方法をこれまで作成した「若者発ご近所福祉かるた利用の手引き」及び「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」をもとに定例会等を中心に研究協議をする。
- ③ 現場実践の機会を持つ
「若者発 ご近所福祉かるた」の活用による「近助」の在り方を、学校教育領域をはじめ、コミュニティ組織、志縁組織、企業、施設等において学び合う機会を働きかける。
- ④ 「会員レポート」の取り組み
定例研究会において、それぞれ会員が日ごろ考えていること、思っていることを「テーマ」に語り合い、意見交換の場をつくる。
- ⑤ 焼津市V連主催の研修会等への参加の機会を持つ。

(4) 広報事業

- ① 「日本福祉文化学会」HPを主体に、「静岡福祉文化を考える会」ブログとのリンクによる本会ブログにより、広く活動を通じた問題提起を発信する。
- ② 焼津福祉文化共創研究会通信の発行（原則、毎月1回発行、A4版、両面印刷）
主には、メール発信に努めるとともに紙媒体で補う。

PCメール送信先	配布及び郵送
1. 焼津市行政各課 (地域福祉課(市民協事務局)・市民協働課・広報課・秘書課・地域包括ケア推進課)	1. 会員(5)
2. 焼津市社会福祉協議会	2. 焼津市V連絡協議会加盟団体(16)
3. 静岡県コミュニティづくり推進協議会	3. 静岡福祉文化を考える会役員(4)
4. 公益財団法人さわやか福祉財団	4. 港地域づくり推進会事務局
5. 公益財団法人あしたの日本を創る協会	5. 港第14自治会(16)
6. 静岡福祉文化を考える会役員	6. 港第23自治会(19)
7. 個人協力者	7. 小川小学校
8. 日本福祉文化学会事務局及び役員・中部東海ブロック学会会員等(6名)	8. 小川中学校
	9. 港小学校
	10. 港中学校
	11. 県立焼津青少年の家
	12. 小川地区コミュニティ推進会
	13. 小川地域交流センター
	14. 個人(5名)

③ マスコミへの積極的な情報提供

(5) 関係機関・団体との連携

- ① 静岡県社会福祉協議会、焼津市社会福祉協議会及び近隣社協への情報提供・連携
- ② 「地域発 福祉文化の創造」の実践を基に、静岡福祉文化を考える会及び日本福祉文化学会との情報共有と活動の協働
 - 各種事業の取り組みについての情報提供
 - 各種事業の実践活動の共有
- ③ 関係機関・団体及び管内学校教育（小・中各2校）社会教育領域への情報提供
- ④ 焼津市V連絡協議会との連携
 - 定例総会出席
 - 定期V連代表者会出席と情報提供（通信配布）
- ⑤ 静岡県コミュニティづくり推進協議会への情報提供
- ⑥ 港地域づくり推進会、港・小川地域交流センター、小川地区コミュニティ推進会及び管内自治会（町内会）への情報提供



* 3月上旬 庭に咲いた“小桜”

- ⑦ 焼津市民生委員児童委員協議会への情報提供
- ⑧ 公益財団法人あしたの日本を創る協会への情報提供
- ⑨ 公益財団法人さわやか福祉財団への情報提供
- ⑩ 公益財団法人ふじのくに未来財団への情報提供
- ⑪ その他、必要に応じて関係機関・団体に情報提供

シリーズ ②④

若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

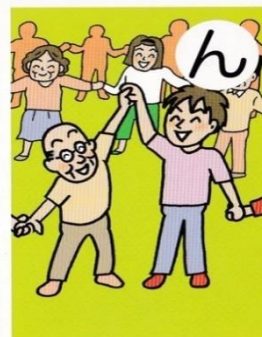


このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発ご近所福祉かるた」(本会制作活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介してきた。

今回が最終回です。「ん」

「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画しました。

*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで。



日頃から、ご近所さん同士が声をかけ合いふれあうことで、地域が大いに盛り上がります。これこそ「福祉文化の創造」です。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(3/07~4/11)予定含

- 3/07 焼津市V連絡協議会 第4回代表者会出席(「研究会通信78・79号」配布)
協働団体：静岡福祉文化を考える会主催「第2回公開型研修会」にて本会研究会通信配布とともに、この1年間の活動連携について報告する。
- 3/14 3月(第84回)定例研究会開催(2025年度活動総括、2026年度活動確認)
- 3/25 2026年度個人用ボランティア保険加入手続き
焼津市社協へ「ボランティア登録票」提出
- 4/06 「研究会通信80号」編集・発行、配布
- 4/11 4月(第85回)定例研究会開催(2026年度活動確認・ご近所福祉検証)



*春を呼ぶ「ヒメリュウキンカ」

「協働団体：静岡福祉文化を考える会30年検証誌・静岡発 福祉文化の創造軌跡30年 一草創期からご近所福祉検証期を辿る」に寄せられた意見を紹介します ①

本会は、「協働団体：静岡福祉文化を考える会」が、これまで30年間の福祉文化実践活動を検証する「30年検証誌」の編集作業に、2025年度1年間協力し、このたび出来上がった。

これまでに、配布した県内外の関係者から寄せられた「意見」を本号からシリーズで紹介いたします。

- *若い方々と語り合い、いろいろな実践活動の学びの場に、約20年ほど参加の機会をいただき感謝している。このたび、届けていただいた「検証誌」には、当時の取組がきめ細かく記録されていることに驚いた。こうして、91歳になった今、若者と向き合いながら、「ご近所福祉の大切さ」を語れたことは、大いに励みになっている。そして、自分のこれまでの多くの「福祉文化実践活動」を改めて振り返ることが出来る。この先は、地域活動そのものは制約されるが、「福祉文化実践活動」の重要性は、身近な方々と語り合うときの「手引き」として大いに活用していきたい。「福祉文化」との出会いをこれからも大切にしたい。
- *当時、大学で、「福祉文化論」を学ぶ中で、大石さきさんとの出会いや、公開型研修会で大人の皆さんと意見交換をしたりして、いろいろと活動に参加したことを思い出す貴重な「30年検証誌」を手にしてうれしい。大学を卒業して18年が過ぎた。卒業してからも、時々、公開型研修会にも参加していたが、勤務状況も複雑で、だんだんとゆとりがなくなり、最近ではご無沙汰をしている。介護現場の現状は厳しく、特に支援者同士の人間関係で悩むことが多く、既に転職(介護関係)を2回して今に至っている。介護の現場における「福祉文化とは何か」を改めて問い質しながら、努力をしていきたい。機会があれば、「公開型研修会」等に参加して、自分を磨いていきたい。

* 教職を退職して、今日まで、長年、文化事業団体で活動をしている。従来の「文化」の捉え方では、共感する市民は減少しつつある。生活の中に喜びを感じ、共に楽しい暮らしをする「生活文化」を基に、文化事業団体の会員維持に努めている。「文化」をもっと市民の身近な領域に位置付けていく工夫がある。「30年検証誌」から、当時、「教育と福祉の融合」を議論した時代の内容があり懐かしい。その当時の生徒は、こうした議論の中に「実践と理論」を基に、積極的に地域参加したことの意義は大きい。このたびの「30年誌」は、こうした、時代の動きをきめ細かくまとめている点理解できる。引き続き、「福祉文化」の発信を積極的に取り組むことを期待する。成果物を通じての感想は、「カラー印刷」であれば、よりインパクトがあったと感じる。また、年配者にとっては、文字はもっと大きくすることを望む。

* 改めて、30年余の長きにわたり取り組まれてきた「30年検証誌」がここに完成したことを祝す。「30年検証誌」を手にして、その重みに驚いたと同時に、数々の事業や活動の企画を綿密に立案し、多くの参加者が賛同した実績は意義深い。いろいろとアイデアを出し合いながら、賛同する市民を巻き込んで成果をあげていることは、なかなかできないことであり「福祉文化」をいかに市民に訴えていくかの工夫が読み取れる。一般社会では、身内福祉の領域に終始し、広く市民に働きかけていくことの難しさがある中で、社会を少しでも変えようとする働きかけこそ、今の社会には必要だと考えさせられた。30年の長きにわたると、活動者の衰え、会員数の減少も気になる。貴会の活動基調である、決して、動員した会の運営ではなく一人一人が身内福祉も大切に、これからの活動に期待する。



シリーズ⑦「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を紹介します

「協働団体:静岡福祉文化を考える会」とともに、令和6年度の赤い羽根共同募金助成事業により、この10年間にかかるたを配布提供した皆さんに、「かるた活用状況調査」を実施した。

その結果を基に、漫画家 法月理栄様の多大なご支援(イラスト作画)をいただき、「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を作成した。本誌第74号から「シリーズ」で紹介している。

第7回は「コミュニティその2 地域の福祉啓発用立看板に活用」

地域が抱えている問題を「かるた」の「読み札」と「絵札」を組み合わせて、管内各地区に「立て看板」にして、地域住民に、ご近所福祉を「見える化」「わかる化」して、啓発活動に努める。

■進め方

- * 研修会に参加した折に、「若者発」ご近所福祉かるたの存在を知った地域住民が、コミュニティ運営に関わる役員に、研修会の内容を話さず中、役員から、ご近所の支え合いを地域住民に理解してほしいと課題を話された。時々、回覧板等で周知はしているものの、目に見えた動きがない。
- * 毎月開催する役員会は、ほぼ、行政や各種団体からの周知事項を確認する程度に留まっている。こうした機会に、地域が抱えている問題を「見える化」「わかる化」する目的で、管内各地区に「広報啓発用立て看板」設置を話し合う。予算の捻出、関係方面への了解をもとに、「かるた」の内容を検討し、設置場所の具体化を進める

■楽しさの工夫

- * 地域の課題解決は、役員だけではなく、広く住民にも、地域課題に関心を持つ呼び掛けと、コミュニティ活動に積極的に参画できる環境づくりに努める。
- * こうした取り組みは、今後、若者にも、コミュニティ活動に関心をもってもらうために、「啓発ポスターの制作」や「標語」を学校にも呼びかけて、児童・生徒の参加等地域ぐるみの活動に広げていく。

■留意点

- * 「かるた」の引用は、本会に連絡して確認を取る。



本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果を、今後、継続的に話し合っていくと、令和元年度に結成して、8年目の活動に入った。身近な地域のことを一緒に語りませんか。

本会(焼津福祉文化共創研究会)への問い合わせは下記をお願いします。

〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚
Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547 E-MAIL: monogusa-tomv@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創研究会
QRコード



静岡福祉文化を考える会
QRコード